教員おすすめ図書コーナー推薦書

教　員　氏　名 鈴木　耕太郎 先生	おすすめメッセージ
①　図書名：異世界と転生の江戸――平田篤胤と松浦静山 著　者：今井秀和 出版社：白澤社　　ISBN：9784768479773	「異世界」「転生」というテーマは、どうしても私たちにとって（いわゆる）「なろう系」小説など、「いま/現代」に流行っているジャンルと考えがちだ。しかし、こうしたテーマは時代関係なく、定期的に人々の間で話題になっているということを認識しなければならない。 　天狗に捕われ、現実世界とも異世界ともいえない場所で数年のときを過ごしたという少年「寅吉」、自分の前世を詳細に語り、前世と今世にかかわる人たちを結びつけた少年「勝五郎」、あるいは有象無象の「怪異譚」――こうしたヒト・モノを前に当時の知識人はどう反応したのか。国学者・平田篤胤と平戸藩前藩主・松浦静山という２人の知識人に着目して記された本書は研究書ながら平易な文章で読みやすい。
②　図書名：怪異と遊ぶ 著　者：一柳廣孝・大道晴香　編 出版社：青弓社　　ISBN：9784787292674	編者の１人、大道は言う。 「「怖いもの見たさ」。この言葉は、怪異に認められる特徴の一面を、非常によく捉えた言葉である。‥‥‥人間は、自身の理解を超えた異質な存在に恐怖心を抱きながらも、なぜか同時に心引かれてしまう生き物であり、これはまさしく「怖いもの見たさ」の常道を示しているといえる」 怪異は、怖い。でも、怖いは‥‥‥楽しい？ 怪異を見る視座として「戯れ」「遊び」を掲げる研究書。 「怖いもの見たさ」にぜひ本書を手に取り、怪異研究の世界と戯れて欲しい。
③　図書名：中世の遊女――生業と身分 著　者：辻浩和 出版社：京都大学出版会　　ISBN：9784814000746	「遊女」――この２文字を前にしたとき、多くの場合、すでに何らかの形でバイアスがかったイメージを想定しがちではなかろうか。 すなわち「遊郭」「売春」「低い身分」「報われない日々」――あるいは少し歴史をかじっていれば「芸能民」「宿場町（飯盛女）」――などだ。 しかし、そうしたイメージは果たして正確なのだろうか。もっといえば、そうしたイメージだけに引きずられてその存在を規定して良いのだろうか？ 中世という時代にあって、さまざまな遊女（ないしその集団）の存在を文字史料や絵画史料をもとに丹念に調べ上げた研究書。ジェンダー、文化、歴史、民俗‥‥‥さまざまな分野に関連してくるので、ぜひご一読いただきたい１冊。